

<空の安全・安心を！ 整理解雇4要件を守れ！>

# 京都のつばさ 街頭宣伝用ニュース 第13号 2012.9.18

日本航空の不当解雇撤回をめざす京都支援共闘会議・発行

京都市中京区壬生仙念町30-2 ラボール京都5F 京都総評会員 075-801-2308 (第15回定例宣伝)



## 「JAL再上場で京セラ丸儲け、稻盛名誉会長に大バッシング」と週刊誌報道

「私たちは一昨年大晦日に日本航空に解雇されたパイロットと客室乗務員 142名です。不当な解雇は撤回せよ！と裁判で闘っています。ご支援よろしくお願いします。」

We are 142 crew members, pilots and flight attendants of Japan Airlines, who were dismissed on New Year's Eve two years ago. We brought this case to court in order to reverse this unfair dismissal. (We were dismissed due to age discrimination and sick-leave record in the past.) Your kind understanding and support would be greatly appreciated. Thank you.

12 31 ,

142

## 「インサイダー取引じゃないのか？」「かつてのリクルートと同じ構図だろう！」

「今年9月に東証に再上場するJALに、『未公開株の売買』を巡る疑惑が噴出している。」と本年9月9日の『週刊実話』は報じています。JALは「10年に破たん。国が3500億円の血税を注入し、稻盛和夫氏を会長に招いて再建に着手した。ところが、その同氏が創業した『京セラ』が、再上場を前にJALの未公開株を取得。上場益を得ることが発覚し、批判が高まっている。今回再上場を果たすJALの増資額は127億円。京セラはこの未公開株を、国が保有する同社株と同額の2000円で250万株購入したというが、再上場の売り出し価格は『3790円』と言われ、『濡れ手で粟の大儲け』と評判なのだ」というのです。

証券会社の関係者がこう息巻きます。「稻盛氏がわずか2年でV字回復させた点は、さすが“経営の神様”だけのことはある。だが、もとはと言えばJALは投資家たちの株券を紙くずにし、血税を注入して生き永らえた会社。それを再建させたからといって、古巣の京セラに儲けさせるのは投資家をバカにしすぎている。まるで、倒産会社を再生して売り払うハゲタカ外資のようなやり口ともっぱらなのです」と。

そして、「購入が未上場のうちだったため事件化しない可能性が高い。だが、“経営の神様”という肩書はこれで終わりかも。公平で透明性のある方策を取らなかったことが稻盛氏の失敗です」とのこと。

## ガソリン代節約のため、台風突っ切り事件も！「もうけなくして安全なし！」で危険な空に

「京セラのアメーバ経営」というのを聞かれたことはあるでしょうか？京セラでは各部署ごとに個人商店よろしく、前工程の部署から仕入れて次の部署に売るという計算をして、一円でも節約しその「労働者一人当たりの売り上げのもうけ金額」を競うやり方をしています。この「哲学」をなんと飛行機会社・私たちの空の足=日本航空にも適用させ、パイロットに『JALフィロソフィ』という手帳を配布しています。

この稻盛哲学に洗脳されたあるパイロットがバンコック発成田行の便で、航路に台風の雲があるが迂回して安全に飛ぶと20万円ガソリン代が余分にかかるため、「台風を突っ切るのでスタッフの皆さんよろしく」と宣言し、飛行機を飛ばしたという事件が一年前起こりました！

「第二の御巣鷹山事故」、いつまた飛行機墜落の重大事故が起こるかわからない、JALにつられてANAでも安全無視の競争戦が繰り広げられ、文字通り「安かろう、悪かろう、安全は二の次」のLCC=格安航空もたくさん飛び交い、JAL稻盛和夫名誉会長のため日本の空の安全はかつてなく危険に！  
ベテラン労働者142人を職場に戻し、安全な空を！

合同纖維組合の皆さんのが手作りの不織布のゼッケンを、無償で東京のJAL不当解雇撤回原告団へ提供されました。「心強い応援に感謝の気持ちいっぱいです」とJAL原告の方々。

